

## GAO 通信第 4 号

50年 8月29日発信 新田 尚

GARP の執行機関である JPS と GAO のことは既にお知らせしましたが、今日は director の Bo Döös 博士と administrative assistant の Mary Stanojevic 夫人の活躍ぶりについてお伝えしましょう。

Bo は 2 代目の director で、初代は R. Garcia 博士です。(Garcia 博士は南米に帰り、更に身体を悪くしたりしましたが、最近元気になられ、現在 GAO に来ています。しばらく滞在の予定。) Bo は御存知の方も多いたと思いますが、スウェーデンのストックホルム大学気象教室で教鞭をとるかたわら、水理気象局で数値予報モデルや客観解析法の開発をしてきた人です。ここ 4、5 年は GARP にかかりきっている所から、Mr. GARP のニックネームがあるようです。

昨年末までは、スタッフの数も少ない所から諸会議への紹待状、information letter、会議資料など沢山の文書類を起案してきて、かなり多忙だったようです。今年からは、われわれが分担していますので、そうした文書類の最終チェックだけすればよくなりましたが、全球実験その他の具体的な計画の立案が現実化したため、電話連絡、会合、発信、判断の決定など従来以上に用事が増えてきているようです。朝早くから夕方遅くまで、土、日もオフィスにやってきますし、家にいても GARP のことで頭が一杯といった感じです。といっても必ずしもそれでコチコチといった印象はうけません。

各スタッフは分担している分野の進捗状況など報告がてら随時 Bo と議論しますが、GARP 全体の流れを如何にスムーズに進展させていくか、学問的成果の水準を下げるようなことはしないで、どうして実際の解決を求めるか、多数の国、多くの技術者と研究者の広範囲に分布した意見からどのようにひとつの方向を採り出すかといったことについて彼自身もかなり経験を積み、考えを深めているようです。話して多くのものを教えられま

す。

さて、Bo という表看板を裏で支え、GARP 全体の事務をとりしきっているのが Mary です。イギリス人でユーゴの人と結婚していますが、英語は当たり前として、仏語、スロバキヤ語を話す才女です。GARP 当初からいる人ですから、これまでの経過をよく知っています。Bo の片腕として GARP の対外部の事務はもとより、スタッフの面倒、コンサルタントの面倒、一切の文書類のタイプや印刷の面倒(2人の秘書に指示を与えて)、手紙類の登録、分類、返信の確認など、全く大黒柱という感じです。この人がバカンスで休むと、たちまち、われわれは不便したり困ったりします。手紙の数にしても、ますます増加の一途をたどっていますが、(例えば今年でいうと 2月54通、3月107通、4月92通、5月90通、6月162通、7月160通、8月140通)この平均、月に100通を越える手紙の内容が大体頭に入っているらしく、相互の関連や連絡状況についてたづねると直ちに返事が返ってきます。もっともいろいろな用件が一度に重なると忘れていてたまにボカをやることもあり、やはり人間だなと思わされます。しかし、まずはめったに間違えることはありません。GARP 刊行物の校正も独りでやり、昨年8月ストックホルムで開かれた Climate Meeting の報告書も少くとも二回はゲラ読みしていたようです。私の英語も勿論、修正してくれますが、King's English (又は WMO English?) になるので大いにまどわされています。

どんなに忙しくても Mary は冗談をいい、他の人の気持を軽くしてくれます。時には人をからかったり、忙しくてかなわないと悲鳴をあげたりしますが、いつも明るい後味を残してくれます。

ここに紹介した2人が健在な限り、GARP は大丈夫、安心しておられると思ったりしています。では又、